

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校

T1 教諭〇〇〇〇 T2教諭〇〇〇〇

1. 日時 平成22年〇月〇日 (〇)
2. 学年 〇〇組
(知的障害特別支援学級 〇年生1名, 〇年生1名, 〇年生1名 計3名)
3. 場所 〇〇組教室
4. 題材名 「おしえてあげるよ」
5. 題材設定の理由

○ 本学級は〇年1名, 〇年1名, 〇年1名, 計3名で構成されているが, 入学時から在籍している児童は〇年生だけで他の児童は昨年度(1名), 今年度(1名)からの在籍である。障害種別としては, 肢体不自由と視覚障害と知的障害を併せ有する児童と知的障害のみの児童がおり, その実態差は大きく4月以降学校行事等が重なったこともあって, 個別指導が多い状況にある。しかし次第に友達を意識する事が増え, 作業を手伝ったり一緒に遊んだりするなど, 関わりが持てる場面が増えてきた。

これまで国語科の学習においては, 身近なことや体験したことを思い出し, 丁寧な言葉と普通の言葉の違いや事柄の順序を意識しながら話したり書いたりする活動を重ねてきた。しかし, 教師の指示がないと思いつくまま一方的に話したり, 話すことが思いつかず黙ってしまったりする場面もまだ多く見られる。

○ このような実態から, 「おしえてあげるよ」という題材を設定した。本題材では, 体験した事柄を友達や教師に「教える」ということを通して, 相手を意識したり自分から進んで話したりするきっかけを作ることができる。話したり書いたりする活動の内容としては「選ぶ, 押す, 刺す, 焼く」など, 作業が簡単で児童の興味関心が高いスタンプ遊びや調理を設定する。それらの活動を話したり書いたりする直前に設定することで, 活動した内容が思い出しやすく, よりイメージを持ちながら話したり書いたりすることができる。また, 体験を共有化することで児童相互の関係が深まり, 友だちの話をより興味を持って聞くことができるので, 話し手も自分の思いが聞き手に伝わる喜びを実感しやすい。

○ 指導にあたっては, 体験活動の中でそれぞれの児童に合った役割を設定し, やりたいという気持ちをより持たせることで, どの児童も主体的に活躍できるようにしたい。また, 食感や香り, 音など五感をしっかりと使うような活動の内容を仕組み, 五感を通して分かったことや感じたことを自分なりの言葉で表現できるようにしたい。事柄を順序立てて話すための手立てとしては, 活動する内容の手順カードや「誰が」「何を」「はじめに」「終わりに」等のポイントになる言葉カード, 一人ひとりの書く量や内容を調整したワークシート等を用意するとともに, 支援の方法や指示のタイミングの工夫を臨機応変に行い, 教師の指示ではなく児童自らが確認しながらできたという自信につなげたい。児童がそれぞれ発表する場面では, 発表者に意識が集中するような言葉かけを行うとともに, 分かりやすかった点などを具体的に評価し, 自分の思いが相手に伝わる喜びを感じさせたい。そして, 一人ひとりの子どもが, 自分の思いを受け止めてもらっているという気持ちを持ち, 話し手の気持ちに寄り添って, 聞こうとする温かい関係を作っていきたい。

6. 題材の目標

- 体験したことについて, 具体物や絵カードを使いながら教師と一緒に活動した大体的内容を話したり思いを伝えたりすることができる。
- 体験したことについて, 言葉カードを使いながら活動した内容を順序だてて話したり書いたりすることができる。
- 友だちの発表を, 最後まで聞くことができる。

7. 指導計画

- | | | | |
|-----|-----------------|---|--------------|
| 第一次 | 楽しかったことを教えてあげよう | … | 3時間 |
| 第二次 | 作ったことを教えてあげよう | … | 3時間 (本時 3/3) |
| 第三次 | たくさん教えてあげよう | … | 3時間 |

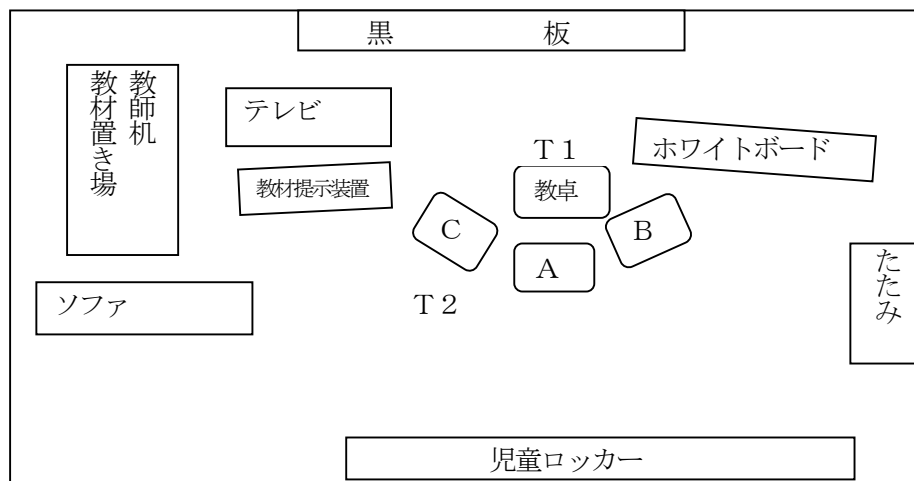
8. 本時の目標

児童	状況 (話す・聞く・読む・書く)	目標
A児 (○年)	<ul style="list-style-type: none"> 脳性まひのため、肢体不自由と視覚障害がある。10cm程度はなれたところから左目で5cm角の範囲の絵やひらがなの判別が大体できる。文字を書くことは難しい。 語彙は少ないが伝えたいことがあると自分から話しかけることができる。 よく分からなかったり自信がなかったりすると、下を向いて話さなくなることがあるが、簡単な内容であれば、質問に対して答えることができる。 話の内容を十分理解することは難しいが、話し手の方を見て最後まで聞こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友だちの方を向き、大きな声で話すことができる。 体験したことについての質問に、具体物や絵カード等を指さしたり、名称で答えたりすることができる。 友だちの発表を、最後まで聞くことができる。
B児 (○年)	<ul style="list-style-type: none"> 話したい事が沢山あり、よく人に話しかけている。サ行・拗音の発音が難しく、早く話そうとして詰まったり一方的に話したりすることが多いが、簡単な内容であれば質問したことに対し考えながら答えることができる。 丁寧な言葉と普通の言葉との使い分けが難しく拗音などの書き誤りもあるが、自分なりの言葉で書こうとすることが増えてきた。 注意集中が難しいが、興味のある事柄については短時間集中して聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な言葉を意識しながら話したり書いたりすることができる。 言葉カードや手順カードを確認しながら内容を順序立てて話したり書いたりすることができる。 友だちの発表を、最後まで聞くことができる。
C児 (○年)	<ul style="list-style-type: none"> ○年生で学習する内容の文章を読むことができる。丁寧な言葉と普通の言葉との使い分けが難しく文字のバランスも取りにくい、思いつくままにすらすらと書くことができる。 話を順序立てて話したり書いたりすることは難しいが、こちらが「はじめに」「次に」などのヒントを出せば意識することができる。 話を最後まで聞くことが難しく、思いついたことをすぐ話してしまう傾向があるが、はじめに聞く姿勢を示すと意識して聞くことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な言葉を意識しながら話したり書いたりすることができる。 言葉カードを自分で確認しながら内容を順序立てて話したり書いたりすることができる。 友だちの発表を最後まで聞いたり、発表した内容について質問したりすることができる。

9. 準備物

- 調理用具・マシュマロ・チョコレート・ホワイトボード・手順カード・言葉カード・ワークシート
- 教材提示装置

10. 教室配置図



1 1. 本時の学習計画

時間	学 習 活 動	教師の支援 (○) と評価 (☆)				準備物
		全 体	A児 (○年)	B児 (○年)	C児 (○年)	
5分	<p>1. はじめのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し方のポイントを確認する。 ・参観者へ自己紹介をする。 <p>2. 今日の学習を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作ったことを教えてあげることを確認する。 ・メニューの紹介をする。 	<p>○気持ちを落ち着かせたり意欲につながりやすくしたりするために、参観者の人数や参観者が児童の学習している姿を見ることを楽しみに来ていることなどを伝える。</p> <p>○発音や話す速さ、丁寧な言葉使いを意識しやすくするために、話す前にポイントを確認する。</p> <p>○伝えたいという意欲を高めるために「教えてあげよう。」という目的を強調する。</p>	<p>○緊張しているようであれば無理をせず、教師が紹介する。</p> <p>☆参観者の方を向いて、大きな声で自己紹介ができたか。</p>	<p>○話し手の方に体の中心を向け、姿勢に気をつけながら話すように促す。</p> <p>☆丁寧な言葉を使って自己紹介ができたか。</p>		<p>○ホワイトボード</p> <p>○めあてカード</p>
10分	<p>3. 焼きマシュマロを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵カードで、メニューと材料、用具の確認をする。 ・教師が作る様子を見る。 ・各自、絵カードを作り方の順に並べ替える。 ・用具と手順の確認をする。 ・焼きマシュマロを作って食べる。 	<p>○調理の手順をより意識しやすいように、大きな動作で示したり、手順カードで確認したりしながら進める。</p> <p>○楽しそうな表情をしたり、香りをかいだりして、児童のやってみいたいという意欲を引き出す。</p> <p>○次の活動の意欲を引き出すために「おいしいね。」「いい香りだね。」「どんなことを教えてあげようか。」など、会話をしながら進める。</p> <p>○一人で絵カードを並べ替えることができるように、作り方の手順を提示する。</p>	<p>○T2はT1に意識が向くように、T1の方を指さしたり「次に何をするのかね。」「おいそうだね。」などの言葉をかけたりする。</p> <p>○用具や材料の名称をより意識しやすいように、絵カードや実物を指しながら手順を確認する。</p> <p>☆「何を食べるのかな。」「次は何をしようかな。」などの簡単な質問に対し、絵カード等を使って答えることができたか。</p>	<p>○自分の力でできたという達成感につなげるために、教師が答えを教えるのではなく、自分の手順カードと教師の手順カードを照らし合わせて確認するように促す。</p> <p>☆簡単な調理の工程を覚え、絵カードや工程表を自分で並べることができたか。</p> <p>☆調理の工程を順序どおりに完成させたり、自分なりの感想を添えて話したりすることができたか。</p>	<p>○絵カード</p> <p>○手順カード</p> <p>○調理用具</p> <p>○材料</p>	

<p>4. 話す内容をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し方、書き方のポイントを言葉カードで確認する。 ・ワークシートに記入する。 ・教師と一緒に内容を確認する。 <p>5. 発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表するとき、聞くときのルールを確認する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 声の大きさ ② 丁寧な言葉 ③ 話す速さ ④ 話す姿勢や向き ⑤ 聞く姿勢 等 <p>6. 良かったところを評価し合う。</p> <p>7. 終わりのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・号令に合わせて、姿勢を整える 	<ul style="list-style-type: none"> ○書く手順が分かりやすいように、「いつ」「どこで」「はじめに」「次に」などの言葉カードを提示する。 ○自信を持って発表できるように、教師と一緒に発表する内容を確認したり、練習をしたりして良かった点を具体的に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ○発表する姿勢や聞く態度を意識しやすいように、事前にポイントを確認しておく。 ○達成感や充実感を持たせやすくするために、発表した内容について良かった点を具体的に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ○充実感や達成感を持たせやすくするために、自分がかんばったところや友だちの良かったところを話すように促し、具体的に評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手順を思い出しやすいように、絵カードや具体物で確認しながら会話を進め、発表する事柄は、A児との会話の中から、印象に残っていて答えやすい内容を選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ☆簡単な質問に、具体物や絵カード等を指さしたり、名称で答えたりすることができたか。 <ul style="list-style-type: none"> ☆教師や友だちの方を向き、大きな声で発表することができたか。 ☆友だちの方を見て、発表を最後まで聞くことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表記の間違いに自分から気付くことができるように、出来た時点で読み直しをしたり、「どこかおかしいところがありませんでしたか。」などの言葉かけをしたりする。 ○自分の力でできたという達成感につなげるために、教師が答えを教えるのではなく、自分で気付くように「分からないときにはどうしたらいいかな。」と問いかけたり、言葉カードやワークシートのキーワードを指さしたりする。 ☆丁寧な言葉を意識しながら書くことができたか。 ☆言葉カードや手順カードを確認しながら内容を順序立てて話したり書いたりすることができたか。 <ul style="list-style-type: none"> ☆丁寧な言葉を意識しながら発表したり、質問に答えたり質問をしたりすることができたか。 <ul style="list-style-type: none"> ☆友だちの方を見て、発表を最後まで聞くことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシート ○言葉カード 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシート ○言葉カード 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシート ○言葉カード
---	---	--	--	---	---	---